

テーマ：『身の回りの事象を科学の目と手で追究できる子どもの育成』

福岡市立 笹丘小学校

Tel. 092-731-0756

担 当 芦塚 文也

者：



■実践内容：

福岡市教育委員会研究指定に関する取り組み

平成19年度から2年間、福岡市教育委員会研究指定を受け、生活科・理科の研究に取り組み、実践の成果を研究発表会で学校関係者に発表した。この発表会に向け、職員で「科学的な知識や論理を学び、それを具体物で現出できたり、生起している現象を科学的な知識や論理から説明したりできる能力をもった子ども」を目指す児童像として設定し、共通実践に取り組んだ。

■実践成果：

研究紀要に記載された各学年部の成果は以下の通りである。

低学年部

- 活動への思いや願いを持ち、気付きの共通理解を図り、その気付きを生かして更に活動を深め、最後に学んだことを確かめ合う活動構成は、主体的な学びを育てる上で有効であった。
- 様々な種類の生き物を取り扱ったことにより、虫を触ることが苦手な子どもでも自分で育てたい生き物を選んで興味関心を持って飼育に取り組むことができた。苦手だった虫も、徐々に触ることができるようになった。

中学年

- おもちゃづくりに至るまでに参考にするものや分かりやすい資料を提示したことで、科学の見方や考え方を高めながら活動に取り組むことができた。
- 問題解決の場での学習を終えた子ども達は、「科学の目を使って予想したり、考えたりすることができましたか。」という質問に対し、全員の子が「とてもよくできた」、「できた」のどちらかに回答していた。

高学年

- 問題解決の場では身の回りの事象を振り返り、科学の目を使って自分なりの課題を持って追究活動を進めることができた。基礎・基本に出会う場で学んだことが自分の問題解決のときの見通しとして役立っていた。
- 学び方の掲示や観察・実験の結果を整理したり、考察し、表現するノート指導の工夫を行ったりしたことにより子どもに問題解決のための学習の進め方を定着させることができた。

■実践ポイント：

理科嫌いの問題が指摘される中、本校では様々な取り組みを通して、理科好きな子どもが育ち、生活科、理科の

学習指導に秀でた教師が育っている。引き続き科学教育の振興を図るための努力を続けていきたい。